

2012年5月17日

各位

会社名 株式会社キャンバス  
代表者名 代表取締役社長 河邊 拓己  
(コード番号: 4575 東証マザーズ)  
問合せ先 取締役最高財務責任者兼管理部長  
加登住 眞 (電話 055-954-3666)

### **CBP501 臨床第2相試験に関する ASCO 年次総会での発表について**

当社が開発中の抗癌剤候補化合物 CBP501<sup>※1</sup>の悪性胸膜中皮腫<sup>※2</sup>を対象とする臨床第2相試験データが、2012年6月1日から5日に米国シカゴで開催される2012年米国臨床腫瘍学会<sup>※3</sup>(ASCO: American Society of Clinical Oncology) 年次総会で発表されることとなりましたので、お知らせします。

これに先立ち ASCO のウェブサイトで公表された抄録には、次のとおり臨床第2相試験データ等が掲載されています。( [http://abstract.asco.org/AbstView\\_114\\_96454.html](http://abstract.asco.org/AbstView_114_96454.html) )

ASCO 年次総会での発表においてはこのほか、主要評価項目など、有効性および安全性に関するより具体的なデータが公表される予定です。

#### 《抄録に掲載された試験概要および主なデータ》

- ・ 試験概要：  
根治手術の適応がなく化学療法歴がない悪性胸膜中皮腫の患者様 65 名を対象とし、標準療法群（シスプラチン・ペメトレキセド）と、CBP501 を併用投与した CBP501 併用群を比較する、第2相無作為化比較試験（CBP501 併用群と標準療法群の被験者割付比率は2対1）。
- ・ 有効性データ：  
評価可能例を対象とした治験医師評価による奏功率は、  
CBP501 併用群： 32% (12/37)  
標準療法群： 14% ( 3/22)  
と、CBP501 併用群の方が高い傾向を示しました。
- ・ 安全性データ：  
グレード3もしくは4の治験薬関連有害事象は、CBP501 併用群と標準療法群で同等でした。  
CBP501 併用群の70%に発赤等の投与時反応が見られたもののすべてグレード1もしくは2であり、抗ヒスタミン剤の投与により問題なく対応可能でした。

#### ASCO での発表内容

発表タイトル： Randomized phase II trial of pemetrexed/cisplatin with or without CBP501 in patients with advanced malignant pleural mesothelioma (MPM) (Poster Discussion Session, Abstract #7029)  
発表日時・場所： 《ポスター》 6月3日(日) 8:00-12:00 E450a (#21)  
《プレゼンテーション》 6月3日(日) 11:30-12:30 E Hall D2

悪性胸膜中皮腫は、外科手術が適応にならない場合が多く、化学療法が治療の中心的な役割を担っています。しかし、臨床試験で効果が確認され米国 FDA の承認を取得しているのはシスプラチン・ペメトレキセドの2剤併用療法のみで、この処方標準療法として世界で幅広く使用されていますが、患者さまの予後を十分改善するには至っておらず、アンメットニーズが高い領域です。

当社は、この状況を踏まえ、CBP501 を標準療法に併用する抗癌剤として開発を進めており、将来の有効な治療選択肢とすることを目指しています。

以上

《ご参考》

※1 CBP501

CBP501は、細胞周期G2チェックポイントに着目した細胞周期表現型スクリーニングを用いて同定したペプチド型化合物です。G2チェックポイントのシグナル伝達経路阻害によるDNA損傷修復抑制作用ならびにカルモデュリン阻害によるプラチナ細胞内濃度上昇を介したDNA損傷増強作用により、2つのメカニズムを通してシスプラチンに対する癌細胞感受性を増強させます。

CBP501については、悪性胸膜中皮腫の臨床第2相試験のほか、非小細胞肺癌を対象に海外で臨床第2相試験が進んでいます。

※2 悪性胸膜中皮腫

悪性胸膜中皮腫はアスベストへの継続的な曝露を主な原因として肺の胸膜に発生する癌です。患者さまの多くは病期が進行してから診断されるため、他の種類の癌と比較して予後は悪いという特徴があります。罹患患者数は米国では年間2500人程度で、患者数が少ない希少疾病疾患ですが、治療選択肢が限られており、有効な治療薬の開発が切望されている領域です。CBP501は、中皮腫を対象に米国FDAからオーファンドラッグに指定されています。

罹患患者数の推移は、過去のアスベスト使用状況と関連があるため、地域によって違いがあり、米国では既に横ばいとなっていますが、西欧や日本では現在も増加傾向にあると推測されています。

※3 米国臨床腫瘍学会 (ASCO: American Society of Clinical Oncology)

1964年に設立された、臨床研究に重点を置く学会。基礎研究分野に重点を置く米国臨床癌学会 (AACR: American Society of Clinical Oncology) と並び、世界的に最も権威ある癌関連学会のひとつです。